

ダイアクリティカルマークとは、文字につける補助的な符号です。ドイツ語でaやoなどの上につけられるウムラウト記号(¨)や、フランス語でeなどの上につけられるアキュートアクセント(´)、スペイン語やポルトガル語で用いられるチルダ(~)などが該当します。平仮名や片仮名の濁点・半濁点も一種のダイアクリティカルマークといえます。以下ではもっぱらラテン文字におけるダイアクリティカルマークについて述べます。

ASCII におけるダイアクリティカルマーク

ASCII ではアルファベットにダイアクリティカルマークのついた文字は収録されていません。「`」(グレーブアクセント)、「^」(サーカムフレックス)、「~」(チルダ)はダイアクリティカルマークですが、別の意味の記号としても用いられます。例えば「`」は引用符(バッククオート)として「'」と対して用いられることがあります。ダイアクリティカルマークとして用いるには制御コードによってアルファベットと重ね打ちする必要がありました。

JIS X 0208 におけるダイアクリティカルマーク

JIS X 0208 は「` ` ^」といったダイアクリティカルマークを1区に収めています。一方、アルファベットにこれらの記号がついた文字は収録していません。重ね打ちによって表現可能と考えられていたようです。

JIS X 0213 におけるダイアクリティカルマーク

JIS X 0213 は、西欧諸言語で用いられるものを中心に、ダイアクリティカルマークつきのアルファベットを収録しています。特に、ISO/IEC 8859-1 と ISO/IEC 8859-2 にある文字は全て入っています。

また、日本語のローマ字表記にて長音の表現に用いられる、サーカムフレックスおよびマクロンのついた母音字 aiueo は全て入っています。

ダイアクリティカルマーク自体の種類も JIS X 0208 から大きく増えています。また、前進を伴うダイアクリティカルマークだけでなく、合成可能なものも収録しています。ただし、合成による表現は規格適合上は必須要件とされていません。

関連項目

- ・ ラテン文字